

研修会内容(令和7年度)

参加者数
【1日目】 21団体 44名
【2日目】 18団体 28名



○プログラム

開催自治体：新潟県見附市

— 8月7日(木) 1日目(会員研修) 見附市文化会館アルカディア —

●会員研修

【講演】講演①「令和7年度建物被害認定調査指針の見直しについて」

内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(被災者生活再建担当)付 小柳 映美 氏
常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏

講演②「データをつなぐ、支援がつながる」

地震と豪雨が重なった能登で見た新たな対応のかたち

講師：輪島市 市立輪島病院 参事 宇羅 良博 氏

【丸山会長退任セレモニー】

ファシリテーター：ネットワークおぢや 副会長 重川 希志依 氏
ネットワークおぢや 会長 丸山 久一 氏



歓迎のあいさつをする
見附市 稲田市長



開会のあいさつをする
ネットワークおぢや丸山会長
(長岡技術科学大学 名誉教授)

研修会内容(令和7年度)

参加者数

【1日目】 21団体 44名

【2日目】 18団体 28名



○プログラム

— 8月8日(金) 2日目(会員研修及び視察) —

●会員研修及び視察

【研修】道の駅パティオにいがた内 防災アーカイブ 平成16年発災の7.13水害について
講師：見附市職員

【視察】みつけイングリッシュガーデン
説明：見附市職員



研修会の様子



パティオにいがた内 防災アーカイブ室で説明を受ける参加者

講演①

令和7年度建物被害認定調査指針の見直しについて」

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（被災者生活再建担当）付 小柳 映美 氏
常葉大学大学院環境防災研究科 教授 田中 聡 氏

発災後、被災者の再建支援に必要な「り災証明書」。その証明書を発行するために実施する住家の被害認定調査について、内閣府職員の小柳氏と常葉大学大学院の田中氏より令和6年度、7年度に改訂した事項について説明をしていただきました。

従来、内水氾濫時は床下浸水を除いて内観調査（2次調査）を実施していましたが、改訂後は浸水深のみで判定することが可能となりました。また、地震の場合は1次調査時点で簡易に半壊判定できる基準の策定がされました。

住家の被害認定調査に従事する職員は、改定内容を確認の上、り災証明を発行するための体制を整えましょう。



講演②「データをつなぐ、支援がつながる」

地震と豪雨が重なった能登で見た新たな対応のかたち

輪島市 市立輪島病院 参事 宇羅 良博 氏

宇羅氏が所属する輪島市では、令和5年度に能登半島地震、令和6年度に奥能登豪雨災害と2つの災害で被災しました。本講演では過去に発災した能登半島地震との比較や、GISを活用した災害対応、また、復興の経過などをお話しいただきました。

GISを活用した事例として、応急危険度調査をモバイル調査化して、それを住家被害認定調査に応用したり、集めた情報をまとめて、ダッシュボードによる見える化などを行いました。

しかし、デジタル化することにより便利になる一方、災害対応等に追われ情報をまとめることが出来ない、便利なツールを活用できていない部局も生じているといったジレンマなどをお話しいただきました。



丸山会長退任セレモニー

ファシリテーター：ネットワークおぢや副会長 重川 希志依（常葉大学 名誉教授）
ネットワークおぢや会長 丸山 久一（長岡技術科学大学 名誉教授）

ネットワークおぢや会長として20年間尽力いただいた丸山会長が、本研修会をもって退任されることになり、重川副会長と20年間を振り返りました。（以下抜粋）

○印象深いこと：ネットワークを作りたいと聞いたときは、支援を受けて、その繋がりをさらに展開していく発想はすごいなと思った。

また、様々な場所で研修会を開催し、その中で官民いろんな講師の話聞いたのは印象に残っている。

○アドバイス：普通だったら余計な業務というふうに周りから言われるかもしれないが、でもやらなければいけないという思いを強く持っている仲間をどれだけ作れるかが大事。その意味では、ネットワークおぢやはそういう事ができる会だと思う。

○最後に一言：自分1人の力はたかが知れているので、いろんな人に聞けるネットワークを活用して、自分のやれる仕事を広げてもらいたい。



研修 & 視察



【研修】道の駅パティオにいがた内 防災アーカイブ 平成16年発災の7. 13水害について



道の駅パティオにいがたにて、平成16年発災の7. 13水害について見附市職員より説明を受けました。発災後は、堤防のかさ上げなどの河川改修に加え、遊水池の確保や田んぼダムの確保を行いました。また雨水貯留管整備を行い、水害対策を強化しているなど説明いただきました。

現地視察



【視察】 みつけイングリッシュガーデン



研修会最後に、みつけイングリッシュガーデンの視察を行いました。大雨が明けての研修だったため、気温が高いなかでの視察でしたが、植物のアーチや噴水などで目や肌から涼を感じられました。

研修会参加者の感想

- ・輪島市の宇羅氏の講義がとても参考となりました。当区の現状と課題に当てはまることが多く、デジタル化の必要性、活用を改めて認識しました。
- ・住家被害認定の最新の状況を知ることができ、また輪島市のDXを活用した災害対応、復興等今後活かせる内容だったと思います。
- ・実災害での苦慮した点や改善点、今後の方向性など具体的に知ることができ、大変貴重な研修を受けることができました。
- ・講演による座学だけでなく、施設見学もあり、とても有意義でした。
- ・宇羅氏の講演で「前回の時の教訓が活かされていない」との発言が印象に残った。なかなかDX化は進まず、被災自治体の大きな負担になっている。実際に災害を受け、どう対応したのかなど研修を通して、とても貴重な機会であった。本市での災害発生時には、少しでも今回の研修が活かせるよう準備をしていきたい。

その他ご意見

- ・災害時にNWおぢやが助けに行った自治体が加入してくれて拡大しているとのこと。当自治体が被災した際もぜひご協力ください。併せて、他自治体へ助けに行く際もお声がけいただければ、当自治体の経験にもなると思いますので、連携いただければ幸いです。



閉会のあいさつをする
ネットワークおぢや 重川副会長
(常葉大学 名誉教授)